

二人の101歳の人生と今日の世界

村石恵照（2025年10月20日）

本年、101歳で二人の立派な日本人が去っていかれた。

一人は10月17日、逝去された元総理・村山富市氏。

100歳になるとどんな心境になるのか、どんな体調になるのか、80歳過ぎの若輩の私には想像もつかない。ましてや元日本国総理大臣である。

一国の政治権力の頂点に立っていた人物の100歳の心境は如何なものか、想像もつかない。

私はパソコンで日記をつけているので、村山富市氏にお会いした時の簡単な記述がある。

「2014（H26）：5／25（日）明治大学リバティータワーで開催の「村山元首相歴史認識を語る」に参加。・・・今回は村山元首相が講演するとのことで満席（約300名）だった。評論家の森田氏も講演。大学の前には警察の車両が6台くらい待機。



その後、駿河台の中華料理屋で懇親会があり、村山氏（90歳）も出席。近くの席に座り親しく面談することができたが、その人物のなんともいえない自然体で謙虚なのに感服した。

尊敬する人物について尋ねたところ、浅沼稻次郎（刺殺）を上げ、彼のことを思うと涙がでそうになる、とのことだった。」

その後、パソコン日記にも記載がなく日時は失念したが、議員会館の近くで開かれた村山氏が参加した会合の終了後、夕暮れの中去ってゆく元総理と娘さんの二人の後ろ姿が思い出される。元総理であるとは言え、ボディーガードがいなくてよいのかなどと考えていた。

もう一人の御仁は6月9日逝去された気象学者の増田善信氏。ビジネスインテリジェンス協会の中川十郎会長と同じ狛江市の住民。

10月19日に狛江駅前の「泉の森会館」で「増田善信さんをしのぶ会」があって中川会長と参加。増田善信とは親しくお話する機会はなかったが増田氏のお人柄の雰囲気はよく覚えている。

そして、会場に展示された増田氏の活動記録を見ながら、コロナパンデミック以前に直接お会いした村山総理の場合と違った様々の歴史的感慨を覚えた。

増田善信氏の会場の壁に展示された101歳の生涯の主要な活動記録を見ていると、昭和史の様々な事件が思い出され、それに刺激されて現在の混沌とした世界状況がイメージされてくる。

米国に二期目のトランプ大統領が登場し、彼の破天荒な行動によって世界の政情が激変している。映画：Civil War に描かれているように米国は内戦状況にあるかのようだ。

米・中・露の関係も複雑を極めている。

ウクライナとロシアの戦闘、イスラエルによるガザの攻撃、先進国における移民の問題がある。

さらに日本の政情も混沌を極めている。

日本は明治維新、敗戦、GHQによる支配を経て、今年2025年の年末までに何か起こるかわからない、予断を許さない状況にある。

101歳の古き良き二人の日本人が去ってゆき、残された我々は、新たな世界と日本の未来図を構想しなければならない。

本年、令和七年、101歳で逝去した2名の人物

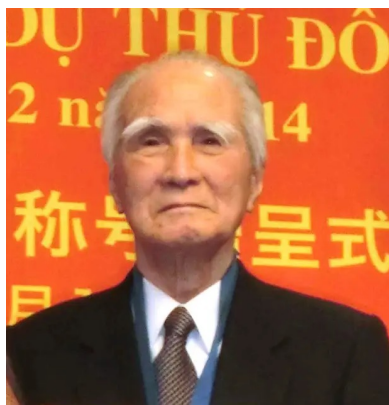
10月18日、

村山 富市（むらやま とみいち、1924年〈大正13年〉3月3日 - 2025年〈令和7年〉10月17日；101歳没）は、日本の政治家、労働組合指導者。勲等は桐花大綬章。

YAHOO! JAPANニュース

右を長めに切ったら「左もいいぞ」松村邦洋、「進め！電波少年」で村山富市さん眉毛切り秘話披露

10/18(土) 6:00配信



村山富市さん

1994年に発足した自社さ連立政権の首相を務めた村山富市（むらやま・とみいち）さんが17日午前11時28分、老衰のため大分市の病院で死去した。101歳だった。悲報を受け、日本テレビ系「進め！電波少年」の企画で、トレードマークの眉毛を切ったことのあるタレントの松村邦洋（58）がスポーツ報知の取材に「シャレの通じる方だった」と寛大な心を持っていた村山さんをしのんだ。

“アポなし”が売りだった同番組で松村は、当時の社会党本部に突撃。村山さんに眉毛を切らせてほしいと頼み込んだ。当初は渋られたが、何度もお願いするうちに「分かった。切らしてやろう！」と豪快に許可。「大きな声だった。怒られると思ったんだけどな。当時は委員長だったかな…」と思い返した。

右の眉毛にはさみを入れ、少し長めに切ると、「左もいいぞ！」。松村が切った眉毛を集めていると、「そんなもん」と笑いながら手で払ったという。「どうやったら面白くなるかが分かる方だったんだと思う。もちろん、その後、一生懸命に散らばった毛を集めました」と懐かしがった。

その後も、選挙の際にあいさつに行くと「お、松村。来てるな」と喜んでくれたという。「当時20代だった僕にとって幸せの一ページです。感謝しかありません。心よりご冥福（めいふく）をお祈り致します」とかしこまった。（浦本 将樹）

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

増田 善信（ますだ よしのぶ、**1923年**〈大正12年〉**9月11日** - **2025年**（令和7年）**6月9日**）は、日本の気象学者^[1]。京都府竹野郡弥栄町（現京丹後市）出身。101歳没。

数値予報を専門とする。気象庁退職後は非核化運動に科学者として関わり、独自調査による広島原爆後の「黒い雨」の降雨範囲を分析した「増田雨域」は、2020年（令和2年）の広島地裁及び広島高裁において健康被害を訴えた原告84名全員を被爆者と認定し、国が上告を断念するに至った訴訟に影響を与えた^[2]。また2020年（令和2年）、内閣が日本学術会議が推薦した科学者のうち6名の任命を拒否した問題に関し、SNSで署名活動を行った。2023年12月2日には100歳の高齢で、26年間代表世話人を務めた全国学者・研究者日本共産党後援会世話人総会の閉会あいさつをした^[3]。

